

I 公演・講座 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

※以下、神奈川県立県民ホールは「県民ホール」、神奈川芸術劇場は「KAAT」、神奈川県立音楽堂は「音楽堂」とする。

公演名／会場	ご意見
キッドピボット 『リヴァイザー/検察官』 県民ホール大ホール	<p>国際的にも先端に行く先駆的でカッチングエッジな作品を横浜で見れるということは、素晴らしいことだと思う。しかも、それなりに観客の入りもよく、ほぼ満席と思われた。なお、U25が半額、18歳以下無料招待等といったこともよく考えられているとは思いますが、観客層を見る限りさほど恩恵を受ける世代が多いとは見受けられず、基本自分でチケット購入した者と思われる。こういう作品に対して高額チケットを購入してくる観客が県民ホール大ホールを埋めることができるほど存在しているということも、神奈川県の強みかもしれない。（海外作品の招聘なので、経費が掛かることは理解できるが、それにしてもチケットは高額と思われる。）</p> <p>あまり予備知識もない中で伺いましたが、字幕に助けられ、楽しく見ることができました。ただ、字幕は上ではなく横の方が見やすかったのではないかと思います（視線移動が忙しかった）。高校生の招待が横浜市に限定されていたのが残念。「県民ホール」なのになぜ？こういう演目が好きな高校生であれば、むしろ観劇の機会に恵まれにくい、ホールがあまり身近にない地域の高校生に足を運んでもらえる機会になるとよいのでは。</p> <p>公演自体は素晴らしかった。充実感のあるプログラムで、2回しか公演が行われないことが残念に思えた。もっと多くの人にみてもらいたいような作品である。おそらく、もう少し舞台の間口が狭い（小さい）方が、舞台全体の収まりはよいように思えたし、レジデントのシアターの大きさと県民ホールの違いによるものかと思う。海外からの招聘公演ということもあり、1回の観客数をそれなりに入れたいということもあったのだと思うので致し方ないかと思う。東京では行われない公演なので、金曜日の夜公演があってもよかったのかと思う。</p>
オープンシアター 2023 県民ホール大ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・キャスト、スタッフ共にバランスの良い作品に仕上がっている。 ・ダンスの魅力をくるみ割り人形という作品を通して魅力的に表現できる作品となっている。 ・マリー役の稲葉由佳利、クルミわり人形役の風間自然、ドロッセルマイヤー役の鴨川てんし、ダンス劇作家の熊谷拓明などの踊りと演技が際立つ舞台である。 <p>・あらゆる層の観客にさまざまな角度からアートを楽しむ夏のイベント「オープンシアター」のメイン企画として大きな手応えのあるステージだった。休憩なしの70分公演は、小さな子どもたちにも集中力を持続できる程度かと感じる。もう少し短縮できれば、巡回公演などに活用しやすいかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チケット金額も学齢や親子連れなど段階的に配慮し、視覚・聴覚障がい者向けの鑑賞サポートにも対応するなど、あらゆる客層への配慮が好ましい。

公演名／会場	ご意見
	<p>・開演前に舞台上で使うキャンディづくり、呼ばれたい名前募集、終演後のステージでの出演者と一緒に踊る企画、開演前の場内でピエロ姿の男女の出演者が子どもたちと交流するなど、いろいろなアイデアが盛り込まれていて、ワクワク感を刺激するのに功を奏していた。地道なアイデアの積み重ねが子どもたちの心に感動の記憶として根付いていくに違いない。</p> <p>・県民ホールのステージでは少し広過ぎる感があったが、道具や照明をうまく活用してセンターに集中できるステージになっていたのは印象的だった。むしろ出演者数をはじめ、比較的コンパクトなステージに適した演目なので、今後は巡回公演の演目として活用して欲しい。</p> <p>・ホフマンの『クルミわりとネズミの王さま』を題材に自由に作・演出・振り付けしたダンス劇。バレエ「くるみ割り人形」の音楽が使われるのかと思っていたら、最後にちょっとだけ申し訳程度に現れたのはバレエファンへのサービスだったろうか。舞台俳優にミュージカル俳優、クラシック・バレエ、コンテンポラリー、ストリートダンスなど、さまざまなキャリアの持主たちが集い、歌って踊ってセリフを言うことで生み出されるステージは、ジャンルを超えた創造の場となり、多様な楽しみ方が提供された。何よりもダンスの雄弁さに圧倒された。出来ることならば、それぞれに専門以外の領域をもう少し深化させて欲しい気はする。</p>
<p>『ローエン格林』 関連企画 シャリー ノ祭り 県民ホール小ホール</p>	<p>・「初めましての方も楽しめる」とありますが、確かにトークは日本語ですから言っている意味は分かりますし、興味深いと言えば興味深かったですが、演奏の方は好みか好みでないかという観点から言うと、う～ん、ここまで前衛的で実験的な内容だというのは・・・。一曲目の演奏では後ろの人のいびきが聞こえたり（いやあの演奏で寝るってすごい！）、トークでは前の席の人は舟をこいでいたり、映像は私も途中意識が飛びました。ごめんなさい、曲によっては「早く終わって・・・」と祈る気持ちになりました。私自身が理解できるかどうかはともかく、新しい音楽との出会いであったことは間違いないです。</p> <p>・商業ベースだけ考えたらできない内容だと思いますので、現代の神奈川県で受け入れられているかどうかはともかく、先進的で創造的で専門的だというのは間違いないでしょう。記念事業に向けて何年も前から準備しているということもよくわかりました。</p> <p>・2000円というのは破格だと思います。とてもペイする金額ではないので、なぜこの金額なのかと考えると、若年層、入門者にも気軽に参加してほしいということでの設定か？好きな人はこれが5000円でも8000円でも来るのでは？でも興味がない人にとっては無料でも参加しないでしょう。</p> <p>・土曜の昼は参加しやすいです。</p> <p>・会場の規模はキャパを考えると適当だったと思います。配布されたリーフレットに、鈴や袋の音に注意というような記載があり、鈴！？鈴！？！？と思ったが、私自身が携帯をしまうためにバッグを開けたらキーホルダーについていた鈴が鳴ってしまったので(開演前)、必要な記載か？とは思いますが、まああまり書かない内容か？そ</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>れとも以前に鈴や袋の音でクレームでもあったのでしょうか？何か違和感ありました。そうそう、映像はプロジェクターで流していたと思いますが、本番中にスイッチを切らなくてもいいのでは？プロジェクターの電源を消しますか？というような表示が投影されてしまったのは興ざめです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好みが多様化している現代社会において、誰もが聴きやすい（聴きたい=集客率が高い）領域というわけではない、現代の音楽世界を積極的に取り上げ続けている姿勢にまず敬意を表したい。 ・シャリーノのオペラ上演という企画自体、とても挑戦的だが、1年後に向けて興味関心を喚起するための第一歩としては有意義なプログラムだった。 ・現代音楽への関心の高い客層が主だったようだが、演奏だけでなく、演出・指揮に関わるメンバー等の座談会、作曲者の住む街を演出家が訪ねた映像を交えたことから、新たな気づきにつながる効果があったように感じる。 ・座談会と映像は演奏の緊張感を鎮める機能を果たしたが、座談会の内容はもう少しテーマ性があっても良かったのではないか。2024年秋に向けてのプロセスや関連イベントなどが示されても良かったように感じる。
<p>オルガンavecシリーズvol.2 県民ホール小ホール</p>	<p>生の音楽と舞踊のコラボというこれまであまり見られなかった舞台で、県民ホールらしい先進的な試みと感じた。小ホールの舞台が通常舞踊に使われる空間に比べ小さく、物理的には制約が大きいと思われたが、左右の壁に移る影も含め奥行きを感じさせるものとなっていて、音楽と舞踊いずれも堪能できる演出であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシックにもバレエにも詳しくない私ですが、ホームページにも記載されているように「挑戦的」な内容であるということはよく伝わりました。オリジナリティーに富む素晴らしい内容だったと思います。やはり有名な曲をちりばめてもらえるとわからないなりに楽しめます。最小の舞台装置と、それを（人力で？）動かしたり、また、照明の効果で壁にシルエットを映し出したりするのもダイナミックで効果的と感じました。曲ごとにわくわくするような仕掛けが満載だったと思います。ただ、挑戦的であるあまり？特に第一部においては、拍手のタイミングもつかめず、曲終わりにも拍手はなく、男性のソロで、「超美技！」という場面でもなかなか拍手が出なくてやきもきし、とうとう自分から拍手してしまいました。（同時発生的だったかもしれませんが、多分一番最初に拍手したと思います）私が拍手してから？皆さん拍手するようになったように思います。それとも思い上がり、思い違いでたまたまそういうタイミングでした？仕込みの人を入れるとは言わないですが、拍手するタイミングが難しかったです。カーテンコールでの写真撮影や、アフタートークはうれしい余録で、特にアフタートークは内容の理解も深めてもらったと思います。可能なら司会進行の人を入れてもらう方が話は円滑に盛りだくさんにできそうですが、お二人で進めることが何か裏話的な特別感があってよかったとも言えますね。おそらく関係者と思われる人たちなどが帰ってしまったのが残念。 ・挑戦的で独創的な内容だったと思います。ただ挑戦的であるあまり、ちょっと私も途中で意識が飛びましたが、周りの人も結構明らかに睡魔に襲われたり（明らかに寝

公演名／会場	ご意見
	<p>ていたり)、同行者に起こされたりしていましたが・・・まあ、心地の良さゆえだったかもしれませんね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入場料金については割引料金も設定されており、若年層にも比較的気軽に参加できる設定だと思いますが、たった一日の公演のために、振り付けからその練習まで、途方もない時間と労力がつぎ込まれていることを考えるとあまりにも安すぎるようにも思います。商業的なものではないですし、ペイすることは想定していないにしても、あまりにも制作費と入場料のバランスがとれていないと思ってしまいます。 ・ 公演日時について、昼間公演が多い昨今ではよき時間設定とは思いますが、三連休の初日というのがどう影響しているのかはなんともいえません。 ・ そもそもパイプオルガンありきの企画なので、まさにここでしかできない公演だと思います。
ジャズ大名 KAATホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久しぶりに本気でスタンディングオベーションしました。まさに筒井康隆の世界！（ファン歴半世紀近く）難を言うなら、初日だったせい？最初のうちは言葉が聞き取りにくかったですが、嵐のせいだったのか？私の耳が慣れなかったのか？最初にタイトルが背景に出たところ、その出し方もすごく筒井ワールドの感じが出ていました。最後に観音様が出現するところとか・・・。舞台なんだけど、映画のような、ライブのような、色々全部入りで大サービスでしたね。狂言回し役の富田さんはほぼ主役！素晴らしかったですね～。上手すぎますね～。もろもろ大満足でした。 ・ 神奈川県内に翻案するというのも嬉しいアイデア。この舞台がこれから全国を回り、荻野だの、相模川だのという単語が全国各地で登場するのだと思うとワクワクします。演奏も素晴らしかったし、振り付けもすごかった(語彙が・・・)。 ・ 入場料金については、相場から考えるとかなりリーズナブルだと思います。私、この翌日に別の舞台を見に行きましたが(なので12/10の別のモニター公演は見に行けませんでした、残念！)、それはチケット代10000円です(正確には友達と見に行ったのでペア席18000円でしたが)。今回の舞台で8000円というのはかなりお安いと感じます。もちろん8000円というのはバイトの時給で考えたらほぼ1日分ですし、大金ではありませんが・・・。また、各種の優待もあるのがいいですね！ ・ 公演日時については土曜の昼で参加しやすかったです。期間も長いので都合もつけやすいです。 ・ 舞台装置もダイナミックでよかったです。通路から「ええじゃないか」が練り歩いてくるところも、劇場全体が舞台になっていてよかった。あの場面で私はかなりがんばって手拍子打ちましたが、なかなか劇場全体にそのムーブは届かなかったですね。初日だったからか・・・？日程の後半ではあの場面でもっと劇場全体が手を打ち足を踏み鳴らす・・・劇場全体に興奮が伝播するのではと期待しております。客席を向いて頭上で手を打っているキャストさんがいたから、あれは観客をあおっていたんですよ？私としてはライブ会場のようにあそこで立ち上がりたいくらいでした。 <p>公演自体は、筒井康隆の作品の世界をすごく良く描けていたと思う。最後の演奏でカオスになっていく部分が、いかにも筒井という感じが出ていて大変興味深かった。</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>とはいえ、こちらが歳だからなのか、若い感覚についていけないのか、また日常的に生音系の音楽を聴いているからか、爆音系の音楽が続くのは正直とてもつらかったところもある。しかし、最近ミュージカル等もあのくらいPAを使っていることを考えると、最近の傾向なのかとも思った。ああいうものが求められているのだろうし、日夜ヘッドフォンで音楽を聴いている若者たちにはあのくらいじゃないと響かないし、ラリれないのかとも思った。</p>
<p>アメリカの時計 KAAT大スタジオ</p>	<p>俳優陣は充実していた。特にローズ・ボームを演じた、シルビア・グラブの演技が素晴らしかった。舞台装置はフレキシブルで良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪華なキャストにワクワクしていました。また、この舞台を見た翌日、話題のテレビドラマの最終回があり、そこで初めて舞台の主要人物が、ドラマでも主要人物だったということに気が付き(個性的な髪形で一目で気が付くべきでした)、役柄の違いを楽しむという余禄付きでした。お芝居の内容については細部、それぞれのシーンは楽しめるのに、全体としては私はあんまりじっくりこなかったもので、これはどうも私の好みの問題、残念ながら私には監督の意図を感じ取れないということかなと思います。東京壱組の大谷さんが懐かしく(懐かしいとは失礼ですね、私がお無沙汰してただけです)、パルコ劇場の「海をゆく者」を買ってしまいました・・・!やはり何かこういうものを見るとそれで終わりではなく、発展して他のものを見たくなったりするものですね。 ・現在の社会状況の中でこのテーマを持ってくるところが(企画段階はもっとだいぶ前なのでしょうが)良いタイミングだったと思います。 ・料金はリーズナブルだと思います。 ・昨今はマチネが主流になった感がありますね。見やすい時間でよかったです。公演期間については集客との絡みもあるでしょうから長ければいいとは思いませんが、選べる日程になっているのは助かります。 ・大型モニターや土の舞台、最小限の移動で様々な場面を表現するなど、たくさんの工夫があり、それぞれ効果的だったと思います。ホワイエで、舞台設営のタイムラプスがあり、楽しく拝見しました。
<p>外地の三人姉妹 KAAT大スタジオ</p>	<p>・見ごたえがありました!この時代にこの内容が必要・・・おっしゃる通りですが、企画側の人にそれを言われちゃうと「まんまやないか!」と思わなくはないです。まんまじゃないのに、観終わったら、これはあれだったのか!と思わされるような内容の方が好みではありますが、まあそれはあくまでも好みの問題です。演出については、開演前の立ち話などからの導入の効果、その是非、スタンドマイクはどういう意味だったのか?小道具のボードゲームみたいなもの?板の上に緑色の突起物がたくさんついているもの(途中の場面転換で持ってきていて、その後の場面転換で場所を変えていた)が何かを象徴しているのか?場面転換などに気を取られて後ろの字幕を読み損ねてストーリーをちょっと見失った、というようなところはありますが(まあ私の理解不足ですね)、全体を通してみれば見ごたえがあり、良い舞台だったと思います。悪意はない(のだろう)けれど人を不愉快にさせてしまう、その時代の価値観にどっ</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>ぶりつかっている人物造形、また、「朝鮮なまり」の日本語の発音もたらず不愉快な感じ(ほめています) などなど、大変良かったです。ただ画竜点睛を欠くと思ったのはベビーカーです。あれではオーパーツ。なぜワンタッチで開閉できるようなタイプの・・・コンビ?アプリカ?のベビーカーを使いましたか?逆にあれを出すことで時代感覚を揺らがせたのでしょうか?戦前にあんなベビーカーはないでしょう?もっと「乳母車」っぽいものを出してほしかった。それとも狙いですか?あれを出すことで、実は現代なのだと思わせるものなののでしょうか?などと思いが巡り、集中力をそがれてしまいました。あれだけ小道具などいろいろ揃えていたのだし、いただいたパンフにも時代考証に気を使ったなどありましたし、あのベビーカーはわざとだったんですかね?(答えが知りたい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけの作品を作り出すというのはやはりすごいと思います! ・県民割や、若年層への割引などもありつつ、定価でも5500円というのはむしろ安すぎる!そのくせ?シルバー割より県民割の方が安いというのはちょっと解せぬ。同じ金額でもよいのでは? ・こんな平日のマチネでこの集客!?すごい!と思ったけれどアフタートーク効果だったのでしょうか? ・座席の間隔や傾斜など含め、大変見やすいと思います。また、客席を通る演出などもよかったです。初演の地下に潜る演出も見てみたかったです。
<p>「三浦半島の人魚姫」 「箱根山の美女と野獣」 KAAT中スタジオ</p>	<p>演劇とダンス、音楽のコラボで、楽しめる上質な舞台に仕上がったものと思われる。アルテリオは小さな劇場だが、それでも観客席はほぼ満席、女性が多いが、年齢層は多様で、4歳以上可としている関係だろうが、小さな子供連れの客もいて、将来に期待が持てる。</p> <p>スタート時の観客とのつかみが良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原作とは全く違う話とは書いてありましたが、まさに設定やモチーフのみを借りてきただけで別の世界が作られており、圧巻でした。実は今まで何回か(評価委員になる前に拝見した西遊記を含め)長塚さんの作品を拝見しましたが、今回が一番私にはハマりました。特に(そういう狙い・演出にまんまとハマったということですね)美女と野獣の最後のシーンには胸が詰まる、こみあげるものがありました。カジュアルな導入から、この感動的なラストシーン、そしてあっさりとしたカーテンコールなどで余韻を残す感じ、大変良かったです。バイオリンもとても良かったです!町田と相模原の感じとか・・・誰かに取材されたんでしょうか(笑)。 ・まさに創造的で、どこにもないすばらしい企画だと思います。ダンスとの融合的なところも良かったです。こういうシンプルな舞台装置でいろいろなものに見立てるといものが好みに合うということもあるのですが、想像の翼が広がる素敵な舞台、お芝居を見に行く楽しみを改めて感じる楽しい、贅沢な時間でした。 ・料金は大変リーズナブルだと思います。各種割引設定などもあり、見てみようかなという思いがある人の背中を押してくれると思います。 ・(平日ではなく)日曜のマチネで参加しやすいとは思いますが、13時開演ということ

公演名／会場	ご意見
	<p>は、その前に開場の時間があるわけで、私は一人で参加なので別に良いのですが、これは友だちと参加するといふときにランチするのかなど考えると、ちょっと半端な時間だと思います。仕込みやバラシの都合などもあるかもしれませんが（といっても、会場設営はかなりシンプルだったので、そこまで時間かからなさそうに思えてしまいますが）14時開演の方がありがたい感じはします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小劇場っぽい雰囲気が面白いと思いました。（実際の小劇場でああいう椅子に座るようなところというのはもっとずっとぎゅうぎゅうなところなので快適さは全く違いますが） ・県内を周回する企画の第2弾であることがよい。KAATが制作する作品を県内各地で鑑賞できるというのがよい ・県内を食文化や名所・観光拠点、伝説などを取り入れた戯曲が興味深い ・「貌（かたち）」を標榜する年度に相応しい、作品創造になっていると考える
<p>KAATEXhibition 2023 浅田政志展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映画は未見ですが、この人をモデルに二宮和也で映画化されたということだけは知っている・・・逆にそれ以外は予備知識なしで訪問しました。内容としては、「とても良かった！」です。日頃から「写真の力」というものを感じる、意識するということはあるのですが、一枚一枚の写真が、それだけで短編小説、あるいは映画のような奥行きや情報量があると感じました。裏のメッセージと合わせて鑑賞すればさらに感慨深いものがあり、もっともっと多くの人に見ていただければと思います。写真集でもいいのですが、大きさから受けるもの、会場という特別な感じ、照明などの演出、などなど、いわゆる「ここでしか摂れない栄養がある」感じがしました。濃密な空間でとても良かったです。また、私自身被写体になったことがあります（単に紹介記事のプロフィール写真程度です）、つくづく自分自身の自己プロデュース力の低さなどを感じましたし、カメラの前でさらけ出すというようなことってなかなかできないものだと感じますが、それぞれの写真の被写体の方の魅力を引き出すという力にも圧倒されました。当たり前ですが写真家というのは、カメラの技術ではなくて、何を撮りたいかというテーマがあつてこそなんだなと思いました。 ・個人に焦点を当てることでそれが普遍的なもの呼び起こすということがテーマなのかと思いますが、あらためて人間というもの、横浜の魅力などを感じることができた良い企画だと思います。 ・当日のチケットがあれば無料で観覧できるというのはとてもありがたいサービス？制度？だと思いますが、1000円払って見に来た人はどのくらいいるのかしらと純粋に興味があります。また、チケットを持っている人もどのくらいの人が足を運んだのだろうかと思います。現地でも声掛け等はされていましたが、多くの方は気が付かずにそのまま帰路についていたような印象です。かといって全員が見に来たら受付や会場がパンクしそうですが・・・費用については、これに1000円を出す、ということに価値があるような気はしますが・・・たぶん半券で見られるのであればプライベートでは見ないなあと思います。もともと入場料で開催費用を賄えるものではないと思いますので、有料でなくてもよいのでは？と思いますけど、無料にするとそれはそ

公演名／会場	ご意見
	<p>れで、しょせん無料のもの、という意識になってしまうので難しいですね。でもちょうど一階では「どうする家康」巡回展が開催されており、もちろん内容も方向性も違うのは分かりますが、大変な盛況ぶりでしたので、せっかくの写真展、もっと気軽に見てもらえるような金額設定（県民割とか、あるいは無料）にしてもよかったですのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終日見ることができるため、観劇前や観劇後の都合の良い時間に利用できて、とても良いと思います。 ・素晴らしい会場だと思いました。県民ホールの方とはまた違いますが、県民ホール休館中のギャラリー機能は十分補えると思います。
<p>子どもと大人の音楽堂<子ども編>せかいともだち！ 音楽堂</p>	<p>昨年に引き続き2回目の参加でした。昨年と異なり、一般的な人気がある（知名度のある）グループのステージがなかったのにもかかわらず、そこそこの入りで、会場に参加しているみなさんも楽しんでいる様子を感じました。休みの日の朝からあれだけの人を集める求心力を感じました。また、日頃ではなかなか身近なところで体験するのが難しい他国の文化に触れるチャンスとなり、特にメインターゲットのお子様たちにとって良い経験を提供できる機会になったのではないかと思います。昨年度、1日中参加できるイベントであれば、キッチンカーなどがあるといいと思いましたが、今年度はキッチンカーも用意されており、さらに楽しみが倍増したと思います。ただし、あれだけの人数の胃袋を満足させるためにはちょっと足りなかったかなとも思いますが、売り切れにならないとそれはそれで困りますし、見極めが難しいところですね。いずれにしても図書館をはじめ他の施設などとの連携のたまものであり、素晴らしいイベントだと思います。昨年度に比べてしまうと全体的に催し自体はやや小粒に感じました。</p>
<p>新しい視点シリーズ<音楽堂リコメンドプログラム> 音楽堂</p>	<p>・今回のこの舞台を見てみたいと思ったのは、コンサート部分にももちろん興味がありましたが、平田オリザさんへの興味があり、なにしろ平田オリザさんが十代のころから注目・・・というか気になる存在でしたので、その割には今まで見に行ったことはなかったんですが、良い機会と思い、モニター参加させていただきました。そして、やはり平田オリザさんの劇団の公演を見に行ってみたいな～という気持ちになりました。とっても贅沢な「お試し」を見せていただいた気持ちです。クラシックについては日頃あまりに縁がなく、曲名を見ても全然わからないけれど聞けばわかるかしらと思っていましたが、まったくわからなかったです・・・たぶん一度も聞いたことのない曲ばかりでした。どのくらいわからなかったかという最初の曲はアドリブ演奏？即興？と思ったくらいです。でもまあ逆に言えばそれだけスリリングで刺激的な演奏だったということで、素人感想お許しください。それにしても、そのようなスタンスで来ているお客さんはそんなにいないと思うので、これだけたくさんの方が音楽を楽しみ、そしてこの企画を楽しみにここまで足を運んでいるのだ(しかも平日に!)ということにも感激しています。最初耳が慣れていなくて、朗読部分がよく聞き取れなかったのが残念。その後の演奏とストリートプレイの応酬は、こういうものはどちらかがどちらかの絵解きになっては面白くなく、かといって響きあうものがなければ</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>意味がない、そういう意味で大変チャレンジングで、そしてそれぞれを高めあう内容になっていたように感じました（わからないなりに！）。大変刺激的で豊かな時間を過ごさせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額については妥当だと思います。若年者への割引制度は大切だと思うのでぜひ続けてほしいです。 ・平日なので参加できる人は限られるかなと思ってしまいますが、それでもほぼ満席とはすばらしいです。 ・芝居を見るのにもこのくらいの施設規模ならどの席からも見やすいと思います。
<p>ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」 音楽堂</p>	<p>バロックオペラの名作。ヘンデルのダカーポアリアが連続する楽曲は耳に残る。音楽堂での公演は、ホールの特徴を生かしたセミステージ形式で、舞台上にオケを中心に、簡素でありながら自由な空間が設定され、演者がのびのびと歌うなど、優れた演出も楽しめた。また、タイトルロールをうたうカンターテノールが声量、歌唱力ともに傑出して素晴らしいが、ほかの演者のいずれもクオリティの高さを感じさせるものであった。チケットも完売のようで、カーテンコールの状況から観客の満足度の大きさも感じられた。入場料はそれなりに高い。U24が半額、高校生は無料という設定はよいが、高校生がどれだけいたのかは不明。U24は確かにそれなりにいたように思われる。</p> <p>・そうそうたる実力者の皆さんがそろっているのだろうと思います。これだけの人たちをキャストイングできるだけでもすごいですね。正直なところ、途中睡魔に襲われましたが、気が付けばまわりからも寝息や白河夜船・・・で、ちょっと安心？しました。3幕あたりで、私もやっと舞台に慣れてきたのか、歌と演奏のコール&レスポンスのようなやり取りや一体感を感じ取れるようになり、楽しくなりました。気になったのは、クレオパトラの従者と、チェーザレの従者？で、その二人は衣装からしてふざけた感じ？学ラン風の衣装は、昔の番長のような感じで演技中にも「ガンを飛ばす」ようなところがあったからあれは狙いですよね？クレオパトラの従者の人は一幕の終わりでスリットが綻びていたように見えたのですが、休憩中に直したんですかね？それとも見間違いか？演技もどこまで本来の演出で、どこからアドリブなのかかわかりませんが、何か内輪受けのようにも感じてしまい、物語世界への没入を妨げるように私には感じてしまいました。オペラを見慣れている人にはああいうのが楽しいんですかね？結構笑っている人もいましたから。また、復讐を誓う息子ちゃんはあまりにもへっぴり腰なので、これはやられちゃうか？と思ったら復讐を遂げることとなったので、これは相手が弱すぎるのか？もう少し勇敢な演技の方が説得力があると思います。しかも明らかに女性なので、これは息子ということにしてある娘なのか？と混乱しました。クレオパトラの従者は女性という設定なのですよ？そこもよくわからなかったです←これがわからないのでは全部わかってないようなものですね。オペラを見たのは初めてではないですが、歌舞伎と同じで、「ブラボー」の声掛け等、初心者にはちょっと敷居が高いと感じてしまいました。ただ、途中から楽しめるようになったのは、（これは私の感じ方であって、理解が浅いと言われそうですけど）あ～、宝塚と</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>同じか！と思ったからでして、私が宝塚を見た時に感じたのは、これは演劇ではなくて演者が美しく華麗に見える場面を切り取っている、ストーリーを楽しむというのではなく、それはもともとわかっていて、盛り上げどころを楽しむものなのであるな、と。それと同じ？で、オペラも、素晴らしい演奏や歌声を楽しめる場面を切り取って、ストーリーが何とかつながる範囲で、見どころの場면을どんどん繰り出してきているんだということで、だから、聞かせどころの歌の部分をこれでもかこれでもかと繰り返して披露するのであるか！と。ストーリーや、聞きどころの部分はあらかじめわかっている人が、ここの部分聞きたい！見たい！と待ち構えているところに、お待ちかねの歌や演奏、見どころシーンを出す、という仕組みのものなんだなと。ということでこれはやはり敷居も高いし、予習も相当必要だなと思いますが、それでこれだけの満員御礼だということは、それだけ人気があるということなのですね。ただ、今は映画でもみんな吹き替え版を見て、字幕版を避ける時代です。この先字幕必須のこういうものはやはり一部の愛好家のものになるのかなと思ってしまいます。</p> <p>・オケピではなく、舞台中央にオケがあるのは見ていてとても楽しいと感じます。指揮者の方がチェンバロも弾くというのも興味深く、ピアノも素晴らしい装飾に見えましたし、ハープを縦から見るのも珍しく、シッタール？のような珍しい楽器の演奏を目の前で見られるのも貴重な機会でした。バイオリンもうっとりするような素晴らしい演奏だったと思います。休憩時間の中に楽器の場所を変えたりしていたのを見るのも楽しかったです。そのオケを取り囲んだ部分が舞台となり、大げさな舞台装置はなくとも、照明などの工夫でストーリーが進んでいくのは興味深く、特にクレオパトラが奥で舞っているのをチェーザレが望遠鏡（最初万華鏡かと思ったけど）でのぞいて虜になるというところはなるほどなるほどと思いました。ただ、オペラの中の暗黙の了解なのか、ここの二人はお互いが見えていないってことなのか？どういうことなのか？と分からない場面もあり、この舞台を楽しむには素養や予習がかなり必要だと思いました。</p> <p>・内容からしたら料金はむしろ安いと思うのですが、入門者にはそうそう出せる金額ではないと思います。</p> <p>・音楽堂公演の場合は桜木町からバスに乗ればよいのだということを知ってから便利に使わせてもらっています。14：20ごろ、14：30のバスを待っていたところ、急いでいるような女性が、バスが出る時間が14：30なのであれば徒歩で行きたいが、どこから行けばよいのかをスタッフの方に尋ね、何か絶望した感じを出しながら音楽堂へ向かっていたので、「？」と思っていたのですが、そうか、プレトークだったのですね。私もホームページで見たときには、これは見逃してはいけないと思ってたのに、当日はすっかり失念してしまい、プレトークの途中で到着しましたが、館内ほぼ満席で、今回のこの公演に参加者のみなさんがいかに期待し、楽しみにしているのかということに気づかされた思いです。</p> <p>・ほかの会場と演出を変えているのかどうかはわかりませんが、舞台上を最大限活用した楽しい舞台でした。</p>

公演名／会場	ご意見
バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全曲演奏 音楽堂	<p>会場が音楽堂で1,000人規模の会場であるがバイオリン独奏には会場として広すぎたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が合う方を選んだのですが、時間帯によって内容が違うという趣向だったのですね。都合や好みによって片方あるいは両方を選べるというのは合理的だと思います。ところどころ知っている曲（というかフレーズ？曲の一部に聞き覚えがある程度）が出てくるものの、知らない曲ばかりでもとても楽しめる、素晴らしい演奏会でした。 ・マニアックにしてオリジナリティーのある企画だと思います。 ・料金については概ね相場かやや割安感のある設定だと思います。各種割引設定があるのは参加を迷う人にとってありがたいと思います。 ・（平日ではなく）土曜日ですし、2部制なので、参加しやすいと思います。これだけの内容なら1日ではもったいないとも思いますが、1日限定だからこそその集客力かもしれないですね。 ・この会場にゆかりのある演奏者だからこそ実現した企画とお見受けします。ご本人も大変楽しまれているように感じました。2部を拝見しましたが、アンコール後のコメントも（もちろん全部は聞き取れませんでした）会場や観客への愛を感じさせるもので、お人柄も伝わるように思い、感激しました。サイン会に登場されたときのホワイエの盛り上がりにも人気を感じました。
ヘンゼルとグレーテル 鎌倉芸術館	<p>・実はこの演目は昨年度に引き続き2回目です。昨年度拝見して、全く理解できず混乱しながら帰りました。その後検索してみたところ、なるほど日本で一般的に親しまれているヘンゼルとグレーテルとは違う筋立てのものなのだとわかり、今回はその予備知識ありの状態でも臨みましたが、やはり同じく理解できない時間になりました。私たちが親しんでいるヘンゼルとグレーテルは、口減らしのための子捨ての話で、子どもが知恵と勇気を振り絞って、魔女をやっつけて帰って来るといったもの。今回の話は家の仕事をさぼっただけでなく、ミルク入りの壺を割ってしまった（実際にはお母さんだと思うが）ことの責任をとらせるべくお母さんが子どもたちを森に使いに出す、しかしその森には魔女がいるのにお父さんに言われて急に心配になって探しに行く？先回りして？しかし現地で魔法使いを演じていたのはお母さん？？？←もうここが意味がわからない。恐ろしい魔女に会う前に自分たちが魔女の代わりに懲らしめる？ちょっとだけ怖がらせて、無事に帰らせるため？そしてその自作自演をネタばらしする？（こう書いても意味がわからない）しかしこれもオペラとは物語の良い場面を良い曲、歌声を楽しむものであって筋書きは関係ない、というものなのでしょう。場面ごとで考えてみれば、楽しめる場面の連続であり、歌も音楽も振り付けも本格的で見ごたえ、聞き応えのあるものでした。また、地元ネタをちりばめているのも面白いとは思いますが・・・が・・・。前回気になった「ででこいや〜」「ばかちんが！」というような台詞は、あまりモノマネじみた言い方ではなかったこともあり、悪目立ちもしない代わりに受けもしない。だったら普通の台詞でも良かったのでは？また、小さいお子さんもたくさん参加されていたと思いますが、近くの席のお子さん</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>は暗転のたびに「もう終わった?」「終わり?」とお母さんに声かけしており、ストーリーを理解するのは難しかったようです。それでも楽しんでいたので・・・これはどんなものなのか?何年か続けて上演している演目ですし、これは財団さんとしても、良い作品だと思って上演しているのだと思いますが、それはつまり、オペラとはストーリーではなく、音楽や歌を楽しむものであるという考え方からなののでしょうか?どうしてもストーリーを追ってしまいます。この作品を鑑賞するには、ストーリーを追うこと自体が間違いなのか?めまぐるしくいろいろな場面が出てきて、なんだかよくわからないけど楽しかった!と思えば成功なののでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち、親子連れでオペラを楽しむという企画自体は素敵なものだと思いますが、これを見て、「面白かった!次はどんなオペラを見ようかしら?」と思うか疑問です。とはいえ、実際の歌声や演奏などはうっとりするもので、芸術の力を感じることができる良い機会、豊かな時間になったのではないかと思います。 ・料金は大変リーズナブルだと思います。むしろ安すぎるくらいではないかと思うくらいです。 ・11時からの舞台というのは朝はちょっと忙しいですが、午後は有効に使えらると思えると良い時間設定かとは思いますが、ただ、クリスマスの定番と書いてあるものを3月に見るのはちょっと季節外れな感じが否めません。とはいえ物語には季節感はないので・・・いや、「森は生きてる」のように、絶対イチゴがない季節にイチゴを取りに行かせるというのが物語のキモだとしたら、もっと寒い時期の方が適していると思います。あるいは寒い時期であるという演出・・・?それとも本来イチゴが摘めるような時期の設定なののでしょうか? ・コロナ禍を経て、またこういう出演者さんと観客がふれあうような演出が可能になったのだと感慨深いものがあります。通路を出演者さんが通るという楽しい演出を皆さん楽しまれていたようです。会場の小ホールは設計の問題か、想定される使い方の問題か、二重扉になっていないので、お子さんのぐずりやトイレなどで入れ替わり立ち替わり出入りがあると、そのたびに外の光が入ってしまうので集中をそがれました。子連れ客同士であれば「泣いちゃってもお互い様」の精神で気にならないのかもしれないかもしれませんが。

II 広報宣伝 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名／会場	ご意見
<p>キッドピボット 『リヴァイザー/検察官』 県民ホール大ホール</p>	<p>一般的な広報は十分なされている。制作のdance base yokohamaでの広報も充実していて、それなりの広報活動がなされたものと思う。リピーターを増やすと言う視点はどういう意味だろうか。こういった先駆的な公演のリピーターなのか、劇場のリピーターなのか。あるいは舞台鑑賞への若年層の誘致だろうか。これまで県民ホールの公演のいくつかをモニタリングさせてもらったが、観客層はそれぞれかなり違う。今回は若年層への配慮、アプローチはなされていると思われるが、効果についてはわからなかった。</p> <p>ご案内をいただくまでは存じ上げませんでしたが、当日はほぼ満席でしたので、この情報が必要な人のところには情報が届いていたのだらうと思います。（固定ファンの方がたくさんいらっしゃるのかしら？）財団からのお知らせのちらしが大変凝った作りで感心するとともにきっとかなり経費が掛かっているのだらうと思いましたが、とても目立つので、その甲斐はあったと思います！</p> <p>もう少し情報を載せられないかと思う。あるいは、事前に見る人の楽しみを増やすような内容が掲載されるとよいように思う。とくにホームページについて。会場で販売していたプログラムの内容は濃かったのよい。このあたりは主催者側の思惑のようなものもあるかと思うが、やはり事前のインタビューが一つくらいあってもよかった。</p>
<p>オープンシアター 2023 県民ホール大ホール</p>	<p>ウェブサイトをよく見れば、鎌倉芸術館との共同企画「アーティスト・イン・レジデンス」が実施されていたり、事前広報として、時期を勘案しながら、トレーラー映像（字幕機能付き）やリハーサル映像、演出者とダンサーとの対談などがアップされていたり、さまざまな情報発信の工夫が行われているのが分かる。残念ながら、その登録者数はあまり多くはないようなので、サイトへの訪問者・登録者を増やすしかけが欲しい。</p>
<p>「ローエングリン」 関連企画 シャリー ノ祭り 県民ホール小ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身はご案内をいただかなければおそらくこの企画知ることはなかったと思いますが、それでもある程度はお客さんが来ていたということは求める人には届いているのでしょう。 ・確かにトークは楽しめましたが、全体を通してみればとてもじゃないが「初めましての方にも楽しめる」とは思えず、何かもう少し心の準備ができる表記をしてほしかったです。本番の演目が有名なだけに、スタンダードな内容かと思いました。まさかここまでの内容とは想像もつかなかったです。 ・この公演を見た人は本番を見たいと思ったのではないかとは思いますが。橋本愛さんの演技は楽しみです。 ・作曲者を訪ねたトレーラー映像以外は、ごく標準的な内容のように見受けた。 ・多角的な情報提供の手法と今後の展開に期待したい。
<p>オルガンavecシリー ズvol.2 県民ホール小ホール</p>	<p>ホームページでの情報は一通り掲載されており、十分である。小ホールだが、観客の入りもよく、比較的女性、若い人もそれなりにいて、リピーターの存在を感じさせる。また、舞台の後のアフタートークにも半数以上の客が残り、熱心に聞いていたこ</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>とからもそれは伺える。このようなアフタートークは、実際15分程度と短いものであったが、観客との関係性を培う良い機会となったものとする。</p> <p>・明らかに不入りと感じました。後ろ2～3列は空席でしたし、招待客だけでも数十名と思うと、実売は6～7割？ただ、もともと満席を狙っているのではないということでしたらこの程度の入りでもOKなのか？「広報はいきわたっているか」ですが、そもそも、どんな広報をしているのかがわからないので評価も難しいです。少なくとも日頃からクラシックやバレエの公演にしていなければチラシをもらうこともないでしょうし、ポスターも見かけないでしょう。ただ、日頃からそうしたイベントに行っているような層がターゲットであって、そうではない人に向けての広報をしていないのならば、私自身に届かないのは当然ですよ。どういうターゲットに向けて、どういう広報をしている、ということが明示されていない現状では、不入りであること＝広報が行き渡っていない、または、ニーズ？日程？いずれかに課題がある、と考えざるを得ないと思います。</p> <p>・ホームページについて、「挑戦的」というフレーズが入っているのでイメージしやすかったです。ポスターのアートワークも素敵だと思います。</p> <p>・たくさんのチラシをいただきまして、相当マニアックなものと思われるものから、裾野を広げるようなものまで様々で、興味の度合いなどにあわせて情報を取捨選択できる余地があると思いました。</p>
ジャズ大名 KAATホール	<p>・テレビ番組などでもずいぶんたくさん番宣（とはいわないか？）が出来ていたようですし、前述の「翌日見に行った舞台」でもチラシをもらいました。日頃観劇をする人にはもちろん、観劇しない人にも広報が行き渡ったのではないかと思います。</p> <p>※実際に私がテレビで見たのは沸騰ワード、激レアさん、ネプリーグです。←バラエティ番組ばかり見ているのがばれますね。</p> <p>・ホームページにはゲネプロの様子やコメントなどもすぐに反映しているのありがたい。楽しく読みました。また、各種SNSへのリンクもトップページ上部にまとめておいてあるのがよい。（各ページの上にも載せてもいいかも？）ですが、ホームページ（トップページ）下部にはX（旧ツイッター）が埋め込みであるのですが、Xへの移行以来、埋め込みしてあっても反映されないで、KAATだけでなく、音楽堂等もそうですが、最新のポストを表示できないのなら何か別法を考えてもよいのではないかしらと思います。（クリックすれば最新ポストに飛んでいけるのは承知していますが）</p> <p>・舞台友だちは、シーズンチケットでジャズ大名を見るそうです。いただいたチラシの束を見ながら、次はこれに行こうかどうしようか、シーズンチケット買っちゃおうか？と眺める時間は楽しみであり、癒しです。といっても、チケット代を見てため息をついて取捨選択ですが……。チラシの束をビニール袋に入れて配布することの是非はあると思います。（ビニール袋を使わないことにしたのではなかったでしたっけ……。？正直なところは裸の束よりありがたいんですが）</p>

公演名／会場	ご意見
アメリカの時計 KAAT大スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の件、9月初旬に別のお芝居を見に行った時にこのチラシをもらいまして、割と直前まで配るんだなと思いました。不入りなのかしら？それとも最初から配る予定だったのかしら？と思いましたが、実際にはほぼ満席に見え、動員力（ということは企画力か）にはいつも感嘆しています。 ・ ホームページは別にわかりにくいとは思わないのだが、アフタートークがあるというような情報はもっとチケットを買う前に（私は買ってませんが）わかるといいなと思います。（最初から公表されていたのならすみません）
外地の三人姉妹 KAAT大スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私自身はご案内をいただかなければおそらく知ることはなかったと思いますが、それでもこれだけのお客さんが来ていたということは求める人には届いているのでしょう。ホームページに新聞や雑誌への掲載情報が掲載されているので、取り上げられていることは分かりますが、これだけの内容ならもっと取り上げてもらってもいいのに？とも思います。それともこれだけでも掲載されているのは凄いことなのか？神奈川県広報番組がテレビでもラジオでもあるし、そういうもので取り上げられたりはしないのか？横浜にはFM放送局もあるのに、そういう番組で取り上げられたりはしないのか？ちょっと残念です。ラジオ出演やテレビ露出がすぐさま集客に結び付くとも思っていますが、人は何回か目にしないと記憶に残らないという話もありますので。 ・ ホームページについては、初日が明けたらすぐにコメントが更新されるのが良いと思います。また、掲載紙なども紹介されているのがよい。何かの機会にそれらも見ようという気持ちが喚起されます。 ・ たくさんチラシをいただきましたので、また何か見に行こうかなと楽しみになります。また、シーズンチケットで記念品というのも嬉しいアイデアだと思います。
「三浦半島の人魚姫」 「箱根山の美女と野獣」 KAAT中スタジオ	<p>KAAT創作作品を県内巡回するプロジェクト第二弾ということで注目している。ホームページその他の情報提供は一般的な水準は十分満たしているが、特段の工夫があるというわけではないように思われる。おそらく口コミを創る作戦かと思われる。これは、アフタートークで主催者の長塚氏が強調していた点でもあり、期待をもって今後を見守りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当日券ありとのことでした。2日公演ということもあると思いますし、初日にアフタートークがあったことを考えると、二日目は完売にならなくてもしょうがないのかなとも思いますが、この内容であれば、即完になっても良いのに？とも思ってしまいます。（いや、実際には主催者側としてはイチオシの内容でも、なかなか観客動員に直結しないことはわかってはいるのですが・・・）また、座間市内からの参加者よりも東京方面からの参加者の方が多いとのことでしたので、各地の公演などでチラシをもらってこれに参加した人も多いのかなとも思いました。そういう意味では広報は行き渡っていると思います。実際私も個人的に見に行った芝居でこのチラシをいただきましたし。実は私の職場の福利厚生関係でこの公演の斡旋がありまして（営業かけました？）、モニター公演がないのなら職場のチケット斡旋の方で見ようかなと思っていました。

公演名／会場	ご意見
	<p>・ホームページはお知らせも適宜更新されており、情報量も多いと思います。ただ、座間公演では、整理番号順の入場であるということがあまり理解されていなかったようです。（その情報を案内することが一番適当なのがホームページなのかどうかはともかく）私自身は現地でチケットをいただきましたので、そこで自由席と知りました。（ということは私も整理番号付き入場とはわかっていませんでした）入場される人を見ていると、整理番号順の入場であるにご存じなかった（と思われる人もいるし、そのように話している人も）方も散見されました。とすると、会場の規模的には、どこで見ても見えにくいということはないけれど、この大事な情報が伝わっていないというのはちょっと困る……。ホームページの問題か？チケットへの記載方法の問題か？</p> <p>・たくさんのチラシをいただきまして、次はどれに行こう、どうしようと楽しみが増えました。</p> <p>中華街の教育もあり、1階広場にデコレーションが飾れたことは、前回の「西遊記」とのつながりを感じさせる意味でも大変に面白い</p>
KAAT Exhibition 2023 浅田政志展	<p>私自身のアンテナが低かったのだらうと思いますが、このような写真のモデルを募集していることを全然知らなかったのですが、どんな媒体でどんな形で募集していたのか興味あります。</p>
子どもと大人の音楽堂<子ども編>せかいともだち！ 音楽堂	<p>私自身は自分から求めてホームページを見なければおそらく情報を入手できなかったらうと思います。それはこのイベントのターゲットから外れているから当然と言えば当然なのですが、だとしたらこのイベントに参加している人たちはどこから情報を入手しているのだらうかと思いました。いくら無料とは言え、事前申込も必要ですし、フラッと通りかかったらやっているから参加しよう、というものではないと思うからです。アンケート回答者などの、ターゲットと思われるところへ集中的に情報を送ったりしているのか？それとも、近隣の小学校や幼稚園などに直接チラシなどを配布しているのか？あるいは駅などの人通りのある所への掲示？タウン誌などへの掲載？いずれにしても私自身は全く目にした事がないので、これに参加している人が一体どこで情報を入手しているのか知りたいです。</p>
ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」 音楽堂	<p>リピーターは既についていて、待ち望んだ公演に訪問ということが多くのように思われた。特に中高年層の観客は既にBCJあるいはオペラ（古楽）のファンが多いようである。その観点からは、U24や高校生への安価あるいは無料のチケット代の設定は一般論としてよいものの、どれだけ使われたのか、また、彼らが今後リピートしてくるのか見極める必要があると思われる。</p> <p>・終演後、駅までの道を歩いているときに周囲の人の声が聞こえてきましたが、みなさんけっこう遠くから来られているようで、それだけこの企画に魅力があったということでもあろうし、別の会場では日程が合わなかったから来た、という人もいたようです。求める人の所には情報が行き渡っているのだなと思います。</p> <p>・びっくりするほど大量のチラシをいただきまして、もうコロナ禍は終わったなと思いました。これだけのものをみんなが求めていたのか！と驚きます。</p>

公演名／会場	ご意見
バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全曲演奏 音楽堂	<p>入場時に配布された紙のパンフレット類が多くゴミになっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ満席に見えたので必要がある人には情報が行き渡っていると感じました。動画なども贅沢に更新されており、ファンにはたまらない情報が満載だと思います。 ・たくさんのチラシをいただきまして、ファンの皆さんはスケジュールやお財布と相談しながら？次に何に参加しようかと楽しみをいただけたのではないのでしょうか。
ヘンゼルとグレーテル 鎌倉芸術館	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシやホームページを見ていれば、親の留守の間に手伝いをしなければいけないのにそれをしていなかった、ということがわかりますが、実際には留守中に手伝いを頼まれていたということが物語の中ではわからないのです。というのも一晩寝て起きて、「仕事」をしなければ、という台詞はあるけれど、家の掃除が仕事なのか、それともハウキ作りが仕事なのか今になってもわからないし、編み物は仕事なのか趣味なのかもわかりません。しかも、長い間（1日ではなく？）留守を守っていてその間に仕事のノルマがあったということが全然わからない。日本人の感覚では液体であると感じるミルクを指ですくい取ってなめるのもわからない。（おそらく生乳だから分離して上の方がクリームになっていてそこをすくってなめているのですよね？）舞台だけでは理解できないストーリーを、ホームページでもっと補完してもらおうと良いのではないかと思います、何でもかんでも解説があればいいわけでもないということもわかりますし、はてどうしたものか。 ・少なくとも当日参加した人は（物語の筋立てはともかく）記念撮影や参加型の演出、団扇のお土産など、楽しい思い出作りができたと思うので、次にどんな演目を選ぶかはともかく、舞台の楽しさを感じることができたのではないかと（期待します）。

III サービス 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名／会場	ご意見
オープンシアター 2023 県民ホール大ホール	<p>開演前の入り口で相当混雑していたが、受付が2箇所だけだったのでもう少し増やしたら如何でしょうか。</p> <p>ホワイエの手狭さ是对応の方法がないが、可能な限り効率的・効果的に活用されている。</p> <p>ホール関係者がよく目立つ黄色いTシャツ姿なのは、とても分かりやすく安心感につながる。大勢のお客様に対してスタッフ人数も十分で、目配りが出来ていたように思う。</p>
「ローエングリン」 関連企画 シャリー ノ祭り 県民ホール小ホール	<p>もうこれから休館を控えていると考えると今の施設についてどうこう言うのもあまり意味がないかもしれないが、トイレの数などは今後改修するとしたら快適に使えるスペースが個室数などをご検討ください。また座席の間隔も今の感覚から言ったら狭いと思います。奥の席の人が後から入ってきたとき辛いですね。</p> <p>いつも通りの丁寧さと安定感が邪魔にならないのが良い。</p>
オルガンavecシリー ズvol.2 県民ホール小ホール	<p>良い企画、素晴らしいダンサーと音楽家によるコラボは、卓越した演出と相まって、観客に贅沢な時間を提供できていたと思われる。料金や公演時間も妥当と思う。</p> <p>入場者の捌きや遅れ客の誘導など、手練れのスタッフ揃いで安心です。</p>
ジャズ大名 KAATホール	<p>たまたま近くに小さいお客様を含む家族連れがいたのですが、座面を上げるためのクッションを勧める声掛けをしているのが、お客さん一人一人に目配り気配りしている感じでたいへん良かったです。（欲を言えば2種類あるのなら、クッションの現物を提示した方が借りやすいような気がします）</p> <p>開演前に1階の女性トイレが捌ききれない様子があった。二階は空いていたので、適宜上手に誘導できるとよいのではないかと思います。</p>
アメリカの時計 KAAT大スタジオ	<p>後ろの席でずっと咳をしている人がいたが、入場時に検温装置が無かったので、とても気になった。以前はコロナ対応で検温装置があったと思うので、今後は検討して欲しい。</p>
外地の三人姉妹 KAAT大スタジオ	<p>制服も素敵だし、みなさんとても感じが良かったです。でもトイレから戻る前にアフタートークが始まってしまった。みんなよくトイレに行かずにいられましたね。</p>
「三浦半島の人魚 姫」「箱根山の美女と 野獣」 KAAT中スタジオ	<p>舞台自体も楽しめる構成であったが、アフタートークが、短くても内容の濃い、メッセージ性の強いものであった。主催者の想い、特にKAATという県立劇場の知名度向上や、かなり広域をカバーすることから小さくフットワークの軽い舞台を巡回することに決めた意図、前回と今回のコンセプトの変化、特にダンスとの協働による効果など、自分の言葉で説明することで観客との関係性が強くなることを実感した。このアフタートークには多くの観客が残り、期待の大きさも感じた。第一弾を見た観客はさほど多くないが、KAATでの観劇経験のある観客は多く、長塚氏からの友人知人への呼びかけのお願いにも反応が良かったことから、今後の展開にもつながっていくと思われる。</p> <p>企画、演者、舞台設計等が非常に良かった。企画としては神奈川県内の各地における伝承や地域を生かしており、また笑い等も随時織り込み、とても楽しい内容であっ</p>

公演名／会場	ご意見
	<p>た。演者も最小限の構成で各人の技量をうまく演じていた。また舞台設計も最低限の装置で有効なものであった。</p> <p>整理番号順の入場の案内が合理的で過不足なく、並ばせ方も待たせすぎず、ざっくりすぎず、表示の紙などもよく準備されているなどと思いました。</p> <p>自由席でありながらも問題なく観客誘導が行えている。</p>
KAAT Exhibition 2023 浅田政志展	<p>ちょっと行列ができるともう捌ききれない感じを受けました。</p>
子どもと大人の音楽堂<子ども編>せかいともだち！ 音楽堂	<p>今回はぜひ駅からのバスに乗りたと思っていました。バス停がどこなのかさっぱりわからなかったのですが、ホームページからの案内もわかりやすく、現地での案内も万全で、バスにもすぐ乗れて大変快適でした！</p>
新しい視点シリーズ<音楽堂リコメンドプログラム> 音楽堂	<p>音楽堂に行くときには桜木町からバスに乗ればいいのだと気が付いてから、音楽堂に行くのが気楽になりました。やはりあの坂を登るのはなかなか辛いですよ。バスを出すことは経費的、人間的にもかなりの負担だと思いますが、様子を見ながらでも続けていただけるとありがたいと思います。</p>
ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」 音楽堂	<p>今回、バスの案内をしている人(もたくさんいましたねえ!)だけでなく、受付まわりにもかなりの数のスタッフが配置されており、特に休憩中のトイレ対策にもそれだけで何人もの人がかかわっていたので、これだけたくさんの方が公演を円滑に進めるために必要なのか!と、改めて驚きました。</p> <p>休憩の一回目は25分の予定でしたが、トイレの混雑もあり、30分以上かかっていたように思います。トイレの混雑にはびっくりしました。いくらお隣の施設も使えるといっても、私もチケットは席においてきてしまったし(再入場にはチケット必要ですよ?)長蛇の列の最後に並ぶしかありませんでした。列の長さには絶望しましたが、最後尾を示すスタッフの人がいることや、トイレ内でも空き室がどこかわかる工夫が施されているだけでなく、切れ目なく誘導されることなどから、大量の人数を捌くことへの工夫や熟練度を感じ、トイレの列に対する不満はあまりなかったのですが、それにしてもトイレの混雑は大きな課題だと思いました。文化財になった今、大規模改修は難しいと思いますが、階段を上らないとトイレがないというのはバリアですよ。座っているだけだとあまり気が付かなかったのですが、遅れ客の人が入るときなど、足をどけたりするだけではなく、立ち上がらないと中に人が入れないのはどうにも狭すぎますね。また、シートの席番が書いてあるあたりもだいぶ布が傷んで綻びかけており、こちらも順次更新が必要かと思います。といっても、段の間隔は変えられないし、シートの張替えも千席分やるとしたら相当な物入りですね。トイレに並んでいるときに気が付きましたが、敷地内の木の枝に黄色と黒のテープがぐるぐる巻きにされており、折れかけているの?それとも車にぶつかりそうなの?・・・理由は分かりませんが、安全のための対策で巻いているのだと思いますが、すごく危険に見えて怖いです。樹木剪定もお金がかかる話ですが、安全安心は最も優先されることなので、もしも枝が危険な状況なのであれば早急に手を打つべきだと思いますし、直ちに</p>

公演名／会場	ご意見
	危険があるのではなく、衝突注意のためであればいたずらに不安を感じさせるような巻き方は一考の余地があると思います。
バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全曲演奏 音楽堂	今回も駅からバスを利用させていただきました。一度使うと便利さに、もうあの坂を登ろうという気持ちになりませんね。今までで一番の混み具合でもあり、今回の公演の人気の高さを感じました（私が利用した時間帯がほかの参加者の皆さんにとっても、ちょうど良い時間帯だったのかも）。多くのスタッフの方がこれらを円滑に進めるために配置されており、ありがたいと感じるとともに、どれだけの経費がかかっているのかとめまいがする思いもあります。座席間隔やトイレ不足など、日頃の利用にはなかなか悩ましいところもあると思いますが、今後も安全安心快適な施設運営で、この素晴らしい施設を維持していただきたいと思います！
ヘンゼルとグレーテル 鎌倉芸術館	来館者に楽しんでもらおう、盛り上げようという機運を感じました。会場の扉が二重扉になっていないことはあらかじめわかっていることなので、ドア番の人をつけても良いのではないかと思います。

IV 施設について

公演名/会場	ご意見
キッドピボット 『リヴァイザー/検 察官』 県民ホール大ホール	<p>ゴゴリの著名な戯曲を演劇とダンスで再構成した舞台上、目が覚めるような衝撃があり、見ごたえがある。ただ、大ホールで見ると、ウェブ上の映像等で見るよりもはるかに小さく（舞台が遠く）、筋肉の躍動や細かな表情などは見えにくい。全体像が見えるという点ではよいかもしれないが、もう少し小さな施設で見たかった（ただ、大ホールでの公演でさえチケット価格はかなり高額なことから考えると現実的でないのかもしれない）。</p> <p>開場前の待ち合わせの人達が集まる場所で、椅子もようやくコロナ前と同じように座れるようになり、日常が戻ってきていることを感じました。それでも検温の装置などは引き続き置いてあるので、これは恒久的なのですかね。</p>
オープンシアター 2023 県民ホール大ホール	<p>講演の内容（企画？）ですが、子供向けだとしたら少々難しい感じで、そばにいた子供が、あれはどうして？や何々なの？等の話し声が聞こえました。ただ、前衛芸術ならそれなりに面白いと思うけど、海外の作品をそのまま翻訳している感じがして、内容が十分に詰めていないように思いました。</p>
「ローエングリン」 関連企画 シャリー ノ祭り 県民ホール小ホール	<p>もうこれから休館を控えていると考えると今の施設についてどうこう言うのもあまり意味がないかもしれないが、トイレの数などは今後改修するとしたら快適に使えるスペースが個室数などをご検討ください。また座席の間隔も今の感覚から言ったら狭いと思います。奥の席の人が後から入ってきたとき辛いですね。</p> <p>音として認知できるかどうかレベルの響きに耳をそばだてる作品では、小ホールは最適。全席指定席というのも理に合っている。</p>
オルガンavecシリー ズvol.2 県民ホール小ホール	<p>劇場の施設設備がやや狭く、古いことは否めない。せっかくのダンサーがやや窮屈そうに踊っているように見えたくらい、舞台も小さい。（逆にこれらの不利な条件を考慮した演出と言うべきか。）</p> <p>開幕ベル（開幕ブザー）の音が素敵でした（最初の一音のボリュームが大きくてびっくりですが）。</p>
ジャズ大名 KAATホール	<ul style="list-style-type: none"> ・開場前にトイレに行っておこうと思ったら1階トイレが激混み・・・でも、〇階にはいくつトイレの個室がある、というような表示があり、安心して3階のトイレを使おうと思えました！ああいう表示は大変ありがたいです。ただし、個室内のトイレの流すボタンは分かりにくいです。久しぶりに使うときはいつも探してしまいます。 ・エントランスで軽食を販売していたような・・・？利用はしませんでした。あらかじめエントランスで軽食をとれると知っていたら利用したかも。併設のレストランはちょっとお高いですよ？向かいのコンビニにはイートインコーナーもありますし、なかなか併設のレストランは敷居が高い感じがありますが、観劇前には食事したりお茶したりするのも楽しみの一つなので、選択肢が増えるのは嬉しいです。 ・単なる間借りかもしれませんが、せっかくNHKが同じ1階にあり、12/9.10はイベントもしていたので（以前におじゃました時は大河ドラマのイベントをやっている日だったことも！）、そういうのも連携してPRしてもいいのと思いました。私自身はNHK横浜放送局のメールマガジンでイベント開催を知っていたので、それも楽しみ

公演名／会場	ご意見
	<p>に訪問しましたが(山Pグッズもゲットしました！)。</p> <p>施設それ自体の問題ではないが、日本大通り駅の地上に出たところに、KAATはこちらといった矢印の表示だけでも出せないか。改札を出たところには地図は出ているが、地上部のところにも簡単なものでいいのであるとよい。</p>
<p>外地の三人姉妹 KAAT大スタジオ</p>	<p>トイレもきれいだしどこが空室かわかりやすいし、とても良いと思います。仕組みはわからないけど、開演前まではケータイの電波が入るのに、上演中、休憩中は圏外になるというのも良いですね。電話が鳴るということもなさそうだなと思います。</p>
<p>「三浦半島の人魚姫」 箱根山の美女と野獣」 KAAT中スタジオ</p>	<p>施設自体は小さな劇場で、舞台が近いし、座席も座り心地もよく十分楽しめると思われる。ただ、映像館と共有するフロアは小さく、飲食スペースはあまりなく、自販機があるのみである。実際、6時半から舞台が始まってアフタートーク終了は9時過ぎであり、また、休憩は15分で、皆さん、いつ食事をされるのでしょうか。帰路においても、劇場前に小田急のスーパーはあるものの、新百合ヶ丘駅の北口付近は飲み屋さん以外の店舗はほぼ終了していた。ということは、この劇場は、近隣住民を観客にするということだろうか。このほか、小さなことだが、傘立てが使いづらい。幅が小さいので取り出しにくい。また、正面の階段が暗くて少し怖い（雨だったからかもしれないが）。</p> <p>近くの図書館、公園、座間市役所には行ったことがあっても、ハーモニーホール座間は今までについぞ一度も行ったことがなかったので、とても楽しみにしていました。思いがけずロールバックチェアの会場で興味深く見学しました。（実際には椅子席の前のクッション席に座ったのでロールバックチェアの座り心地は経験しておりませんが）こちらの会場は特定天井対応のためしばらく休館するとのことなので、その前のタイミングで利用させてもらって良かったです。</p>
	<p>吹き抜け広場に投影されている映像が静かな吹き抜けを活性化している</p>
<p>KAAT Exhibition 2023 浅田政志展</p>	<p>会場近くのエレベーターには、こちらからは写真展会場には入れないというような表記がありました。そのような貼り紙をすること自体、あそこの会場で有料の催しをやることに無理がある？設計の段階で想定されていなかったのかな？と思いました。</p>
<p>子どもと大人の音楽堂 ＜子ども編＞せかい はともだち！ 音楽堂</p>	<p>施設内で飲食できるスペースを用意してもらっているのがとても良かったです。といっても私は出遅れてしまいなかなか座れるところを見つけられませんでした。ずっと荷物を置きっぱなしの席もあったので、譲り合って使うような促しがあるとよかったですかとも思います。</p>
<p>ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」 音楽堂</p>	<p>いつもながらトイレに長蛇の列で、全員が使い終わるには、隣の図書館まで利用しても休憩時間いっぱいかかる。休憩時間も長いため、終演時間も遅くなるのでは、と思われる。また、飲食サービスもあまりないことはいつもながら残念である。舞台の音響は素晴らしいが、ホワイエが空間的にもサービス面でも寂しく、やや疲れる。</p>

公演名／会場	ご意見
バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全曲演奏 音楽堂	座席間隔やトイレ不足など、日頃の利用にはなかなか悩ましいところもありますが、今後も安全安心快適な施設運営で、この素晴らしい施設を維持していただきたいと思います！
ヘンゼルとグレーテル 鎌倉芸術館	鎌倉芸術館に来たのは数年（十数年？）ぶり2回目ですが、小ホールは初めてでした。小ホールといっても十分な広さで、多目的に使える素敵なホールと感じました。中庭などの雰囲気も素晴らしく、特別な感じを得ることができます。残念に感じたのは、私が利用したトイレは大変事務的なトイレだったので（ほかにもトイレがあるのか？）ホール全体の雰囲気からするとずいぶん質素に感じました。

V 自由意見

公演名/会場	ご意見
キッドピボット 『リヴァイザー/検 察官』 県民ホール大ホール	素晴らしい公演で、堪能した。これだけの企画ができる劇場があることを改めて大切にすべきと思う。クラシック音楽などの公演に比べて若年世代が多いように感じられた。が、チケット代は高額で、観客のプロフィールが気になる場所である。(多くの神奈川県民がこの公演を鑑賞したのだろうか。)
オープンシアター 2023 県民ホール大ホール	コンパクトな作品であることと子供から大人まで楽しめる作品である。県内だけでなく、県外への発信も期待できる作品である。
「ローエングリン」 関連企画 シャリー ノ祭り 県民ホール小ホール	<p> 実はこれを見に行った時には、私自身が企画立案した自分のところの事業の集客に悩んでいたのですが、このステージを見に行き、私の悩みがちっぽけだと思えるようになりました。相当の予算をつぎ込んでいるように見えたが、それでこの集客！？満席になることが目的ではないとしても、定員の半分しか埋まらないということでもいいのかな？それとも来たるべき本番公演の前哨戦、準備のプロセスであって、一つ一つの公演についてはそこまで集客を求めているということなのか？(ちなみに私自身が悩んでいた自分のところのイベントは満席になりました。まあハコは200キャパですけど) また、トークや橋本愛さんの動画でも「気が狂う」というフレーズが何度も出てきて居心地が悪い感じがしました。気が狂うってどういうことでしょうか？一時的な錯乱？それとも双極性障害や統合失調症(破瓜型?)？精神疾患の人達への配慮がそこにはあるのかなあ？芸術だからといって許されるのか？古典だから許されるのか？なにか非常に不快でした。自分たちが「気が狂う」側にいない高みから語っているように受け取れてしまい、実際にはそれはスペクトラムなのか、ドア1枚で全くの異世界なのかはわからないのだけれど、自分がそちら側の人になるということ、紙一重なのだと感じるような内容の話なののでしょうか？「キ〇〇イ」はダメで、「気狂い」はOKなのか・・・？そのあたりの違和感を言語化するのに時間が必要でした。今でも消化しきれしていません。精神疾患の人への偏見が増すような内容ではないんですよね？ </p> <p> ・圧巻だったのはヴァイオリンの石上真由子の演奏。これだけでも十分に会の意義はあった。フルートの山本英、打楽器の安藤巴もそれぞれに果敢に挑戦。若手アーティストのレベルの高さにも驚く。聴覚検査に臨むような緊張感のなか、超絶技巧が連続する異次元の世界が広がった。オペラへの期待が高まる。 </p> <p> ・シャリーノ自らがナビゲートする形で紹介された街の映像からは、風の遺した壁の痕跡や教会の音の響き、石畳の音等、作曲家を取り巻く文化環境が創作に投影している印象を受けるとともに、そうしたものを作曲家自身がどのように捉えているかが伝わってきた。微かな音や間、噪音などは、日本の音遣いの感性に近いものが感じられ、実に刺激的だった。 </p>
オルガンavecシリー ズvol.2 県民ホール小ホール	県民ホールは、横浜の観光地の真ん中という抜群の立地と便の良さを誇り、これまでの多くの観客を集めてきた素晴らしい施設と思う。また、次の世代を担う芸術家などの人材も排出し、マネジメントノウハウの蓄積もあると思う。しかし、老朽化は否

公演名／会場	ご意見
	<p>めない。(文化財として残す、ということも諸般の状況から難しいように思われる。)</p> <p>今後、こういったソフトの資本をどう活かしていられるのでしょうか。ぜひ良い形で道筋を見出してもらいたいと思っています。</p> <p>今回は売店でピアノをモチーフにしたような小物が多く販売されており、事業にあわせた品揃えにしているのかな?と楽しい気持ちになりました。</p>
ジャズ大名 KAATホール	<p>今後も素晴らしい舞台芸術の世界を私たちに提供してくださることを期待しています!</p>
アメリカの時計 KAAT大スタジオ	<p>規制退場があった時代には(もうすっかり過去に感じます)、規制退場メンディ・・・早く出たい・・・ルール破って帰る人を見るのは不愉快だけど自分ではルールを守る小市民感もイヤ・・・と、モヤモヤしていたものですが、一斉退場になると、便利と感じる一方、混雑を不愉快に感じてしまう、何と人間は身勝手なものかと思えます。</p>
外地の三人姉妹 KAAT大スタジオ	<p>チラシデザインはちょっと地味だと思いました。初演のちらしの方がインパクトが強いように思います。</p>
「三浦半島の人魚姫」 「箱根山の美女と野獣」 KAAT中スタジオ	<p>演劇のコアファンでなくても十分楽しめる軽さが特徴の舞台で、今後も継続されるとのこと、固定客もついて来ると思われる。こういった試みで県立劇場の存在価値を高めてほしい。</p> <p>県内各地へ出張公演、今後も楽しみにしております!</p>
ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」 音楽堂	<p>音楽堂公演のラインナップはいつも素晴らしいと思うが、クオリティはほぼ同等であっても料金かなり異なる。主催者の差によるものと思うし、海外招聘が割高になることも理解できるが、公立の劇場であることから、若年層への優遇の拡充などとともに、大人料金を上げるなどメリハリをつけてもよいかもしれない。</p>
バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」全曲演奏 音楽堂	<p>当日いただいた資料だったかに書かれていた表現で、「東京公演は完売で、横浜公演は云々」というような箇所があったと思いますが、その表現が引っかかったまま飲み込んでおりません。東京に対する言葉は神奈川なのでは?まあ確かに、愛知公演ではなくて名古屋公演というかもしれないし、北海道公演ではなくて札幌公演という・・・かなあ?慣例でしょうかねえ。でも、神奈川＝横浜ではないし、横浜＝神奈川ではない・・・ですよ?横浜以外の県民としては引っかかります。</p>
ヘンゼルとグレーテル 鎌倉芸術館	<p>もし私が小さい子どもの育児中でこれを見に来ていたら、地元だしチケット代も安かったからそう不満には思わないかもしれないけれど、「次はしまじろうかノンタンにしよう」と決意するのではないかと思います。よほど子どもたちが気に入れば別ですが・・・当時、そういう着ぐるみショーやホリプロのミュージカルの「ピーターパン」等には時々連れて行っていましたので、親の気持ちとしてはそうなってしまいます。特に今回はかなり不入りであるように見えたのですが、それがニーズの問題なのか、広報か、時期かなど、せっかくの事業をより効果的に実施していくためには分析が必要ではないかと思います。でも来てくれた人にはアンケートで感想が聞けますけど、来ない人がなぜ来ないのかはわからないんですよね・・・。</p>